



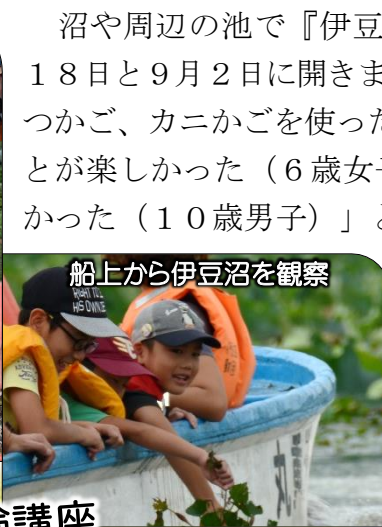
マガンの初飛来を9月21日の7時30分に確認しました。成鳥11羽、幼鳥4羽が、伊豆沼南の水田で羽を休めていました。平年より1日遅く、昨年より7日遅い飛来です。

祝
Vol.100
平成30年10月号

伊豆沼漁師体験で沼の自然を満喫



定置網で捕れた魚にビックリ



船上から伊豆沼を観察

沼や周辺の池で『伊豆沼・内沼自然体験講座 伊豆沼漁師体験』を8月18日と9月2日に開きました。小学生ら20人が参加し、タモ網、定置網、つかご、カニかごを使った魚捕りや乗船を体験しました。「コイを触ったことが楽しかった(6歳女子)」「船でガガブタやアサザを観察するのがよかった(10歳男子)」と参加した感想が寄せられました。

つかごで大きなコイを捕まえた



募集中

伊豆沼・内沼自然体験講座

ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー(11/4 11/18)

ガンの飛び立ち観察会&沼歩き探鳥会(12/8 1/19)

*詳しくは、ホームページをご覧ください。

大学院生の伊豆沼実習

東京大学の多部田・水野先生研究室の大学院生による伊豆沼実習が8月25～26日にありました。水野先生は音波探査の専門家で10年近く共同研究しています。学生はさまざまな切り口から伊豆沼を下調べし、スカイプ会議で私たちを質問攻めにし、そして現場でドローンや水質測定の実習をしました。どんな伊豆沼を描くのか楽しみです。 水質測定の指導を受ける学生 →



伊豆沼・内沼自然再生協議会の現地視察



伊豆沼・内沼の自然再生をすすめるため、伊豆沼・内沼自然再生協議会が組織されています。その現地視察が8月31日にありました。協議会メンバーを中心に35人が参加し、3班に分かれて植物、魚類、船上からのハス刈りを視察しました。豪雨の後で水位が上昇したため、普段とは様子の異なった沼でしたが、みなさん、興味深そうに視察していました。

← 植物の系統保存について説明を受ける参加者

金成の中学生が地域学習に来ました

地域学習の一環として、栗原市立金成中学校の3年生10人が、9月11日にセンターを訪れました。研究員による解説の後の質問タイムでは、事前に色々考えて来た生徒たちから「多様性の保全」や「水質問題」など、いくつもの質問がありました。中には、考えさせられる質問もあり、この地域に住む一人の大人として「いい仕事をしていかななくては」と改めて思われました。このような機会を通じ、地域に関心を持つ学生が増えることを願っています。



伊豆沼・内沼地形模型図を囲んで

ブラックバスを水族館で有効活用

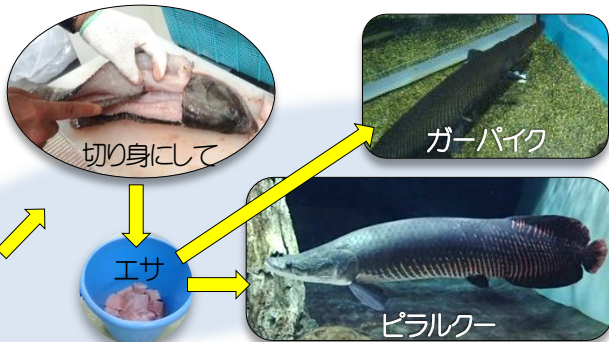
宮城県伊豆沼・内沼
サンクチュアリセンター



駆除したブラックバス



仙台うみの杜水族館



財団では、伊豆沼で駆除したブラックバスを仙台市にある『うみの杜水族館』と協力して、有効活用に取り組んでいます。ピラルクーなど2m以上になる大型の淡水魚などの餌として、駆除したバスを数年前から提供してきました。淡水魚の餌には淡水魚の方が良いのか、体調にも効果があるようです。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 蓼食う虫も好き好き

秋の伊豆沼を代表する草花といえば、タデの仲間が挙げられます。“千篇一律”に地味な印象の雑草が多く、反対意見も聞こえてきそうですが、それは“タデ”の魅力に気づいていないだけです。一口に“タデ”といっても、その草姿は“千変万化”で、例えばオオイヌタデの花序（花の集まり）は稲穂のようですが、ナガバノウナギツカミの花序はまるで金平糖です。ヤナギヌカボのように、陸上では地味でも、水中では赤や黄の鮮やかな水草に変化する変わり種も存在します。極めつけはサクラタデの仲間、花のひとつひとつが大きめで美しい上、群生する習性を持ちます。まさに“錦上花を添える”です。“蓼食う虫も好き好き”と言いますが、タデの仲間は万人受けすると私は信じています。



上段:左からオオイヌタデ(赤花) オオイヌタデ(白花) サクラタデ 下段:左からナガバノウナギツカミ ヤナギヌカボ ヌカボタデ イヌタデ



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp

